

利用者調査とサービス項目を中心とした評価手法

## 東京都福祉サービス第三者評価(2021年度) 評価結果報告書

2021年12月1日

株式会社野本プロジェクト  
みのりきつずなあさりい

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

押印  
省略

以下のとおり、東京都の評価手法に沿って、評価を実施いたしましたので、報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		
	①	H0702006	
	②	H0702077	
	③	H0902065	
	④	H1001023	
	⑤		
	⑥		
福祉サービス種別	認可外保育施設(ベビーホテル等)		
評価対象事業所名称	みのりきつずなあさりい		
利用形態(複数選択可) (該当する形態を選択)	<input checked="" type="checkbox"/> 月極保育 時間預かり(一時預かり)保育		
事業所連絡先	〒	134-0015	
	所在地	東京都江戸川区西瑞江5丁目7番3号 1階	
	TEL	03-6808-0210	
事業所代表者氏名	中山 しのぶ		
契約日	2021年	6月	1日
利用者調査票配布日(実施日)	2021年	6月	18日
利用者調査結果報告日	2021年	9月	1日
自己評価の調査票配布日	2021年	6月	14日
自己評価結果報告日	2021年	9月	1日
訪問調査日	2021年	9月	6日
評価合議日	2021年	9月	6日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、 補助者・専門家等の活用、第三者 性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。		

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【保育理念】人間の基礎をつくるのに最も大切な時期のお子様をお預かりすることの重大使命を第一義としております。「子どもたちの幸せのための保育」何よりも生命を大切にできる子どもに。そして、自ら伸びようとする力を引き出し心も体もすくすく元気なみのりに。</p> <p>【保育方針】「個々の子どもの良い所を見つけ誉めて育てる」を基本方針とし、子どもたちが心身共に健やかでいられるよう心掛けきめ細やかな保育に努めます。</p> <p>【保育目標】元気に挨拶が出来る子。心身共に丈夫な子。友達と仲良く遊ぶ子。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自ら判断し行動できるように努力する。</li><li>・思いやりをもって子どもにも保護者にも職員にも接することが出来る。</li><li>・職員同士互いの考えを尊重し、向上しあえる。</li></ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自ら気付き自ら動き、職員同士ともに考え力を合わせてより良い保育を目指していく。</li><li>・互いに認め合い良い所を伸ばしていく。</li></ul>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯18(在籍児童数19)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	19
利用者家族総数(世帯)	18
共通評価項目による調査対象者数	18
共通評価項目による調査の有効回答者数	12
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	66.7

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」41.7%・「満足」33.3%の計75.0%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」「整理整頓・清潔」など全17問中8問で80~100%の高い支持を得ている。一方、「外部相談窓口の周知」では50%を下回っている。  
 自由意見では「小規模なこともあり違う年齢の子や先生とも関わることが多く、給食・おやつともにおかわりができ、家では苦手なものも食べてきており、絵の具等、まだ早いと思うことも採り入れてくれ、楽しそうにしている」「通園してから生活リズムがきちんとつくようになり、先生方がサポートしてくれているおかげで、寝返り・ズリバイで前に進む等、わが子のできること・成長したことがたくさんあった。迎えに行った時のわが子の様子を見ると、園で楽しく過ごせたのだとわかり、親子ともども楽しく通園できている」「持ち帰ってくる作品のクオリティが高く保護者も楽しく、給食の量も子どもの様子を見ながら調整してくれている」などの声が寄せられている。  
 さらなる向上を望む意見としては保護者の就労・負担への配慮、保護者との日常のコミュニケーションに関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	11	1	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%となっている。 自由意見には、「おそらく発達に応じたものになっていると思うが、コロナの影響で参観日等もすべて中止のため、よくわからないというのが現状である」の1件があった。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	12	0	0	0
有効回答者12人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	9	1	0	2
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	9	0	3	0
「はい」が75.0%、「いいえ」が25.0%となっている。 自由意見には、コロナ禍の影響に言及する声が1件寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	7	2	2	1
「はい」が63.6%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が18.2%となっている。 自由意見は2件で、「実際にお迎え時間を15分程過ぎてしまいそうだった時、柔軟に対応してもらえて助かった」のほか、受付時の対応・接遇などについて、さらなる配慮を望む声があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	10	1	1	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が8.3%となっている。 自由意見には、感染症対策に関する声が1件寄せられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	7	3	1	1
「はい」が63.6%、「どちらともいえない」が27.3%、「いいえ」が9.1%となっている。 自由意見は、行事の日程等における各家庭の負担や就労等への配慮に関する声や、コロナ禍の影響に言及する声が2件寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	10	1	1	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が8.3%となっている。 自由意見には、「担任の先生のアドバイスのおかげで、家庭での子育てに役立ったこと、参考になったことがあった」の1件が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	1	0	1
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	1	2	0
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が16.7%となっている。 自由意見には、職員の接遇について、さらなる向上を望む声が1件寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	1	2	0
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が16.7%となっている。 自由意見には、「小さなことでも報告してくれ、病院にかかるタイミング等も相談に乗ってもらえて心強かった」の1件が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	6	2	0	4
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が25.0%となっている。 自由意見には、「今のところまだないのでわからない」の1件があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	1	1	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が8.3%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	1	0	1
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	1	2	0
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が16.7%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	7	2	1	2
「はい」が70.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が10.0%となっている。 自由意見には、「職員による」の1件があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政等)にも相談できることを伝えられているか	2	1	2	7
「はい」が40.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が40.0%となっている。 自由意見には、「みのりきっずで困ることがなく、それだけ満足している」の1件が寄せられている。				

## I サービス提供のプロセス項目（サブカテゴリ1～3、5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページやパンフレットを通じて、園に関する各種情報を発信している</p> <p>ホームページやパンフレットを制作し、園に関する各種情報を発信している。ホームページでは、保育の理念や方針・目標、園概要のほか、保育や年間行事、費用などに加え、準備物や園との連絡、保護者への依頼事項などの入園後の約束ごとなどの情報を発信している。これらの情報を端的にまとめ、入園後の様子をイメージできるよう、クラスや日々の様子などの写真を織り交ぜたパンフレットを見学を訪れた人々に配付している。</p> <p>区の各種の媒体から当園の基本的な情報が取得できるようになっている</p> <p>区が作成し、関連窓口で配布する冊子「認可保育施設入園のご案内」には、当園を含む区内の地域型保育事業の施設の所在地のほか、卒園後の受け入れ先である連携施設名とその所在地、及び受け入れ人数の情報が一覧表となって掲載されている。区のホームページからは同冊子のほか、区内の認可保育施設の所在地・連絡先、定員や開所時間などの情報を一覧化した資料も取得することが可能となっている。また同ホームページからは各年齢に対する空き情報も確認できるようになっている。</p> <p>感染防止に配慮しながら、園の取組を知らせる見学や活動の体験の受け入れを行っている</p> <p>見学は電話による予約制とし、希望者の都合に応じて受け入れている。特に要望がない場合は、普段の様子が見られる午前または夕方の時間帯を勧め、1回あたり1組とし、コロナ感染予防にも配慮しながら行っている。当日は、パンフレットを渡し、記載している内容を説明するとともに、園内を案内するほか、見学者から寄せられる質問に答えている。また英語やリトミックの活動を行っている場合には、参加を促して園の取組を知ってもらう機会としている。入園が困難な場合は、区作成の冊子を希望に応じて配付し、区の相談窓口を伝えている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/6
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇●)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
○あり ●なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>		
<p><b>入園前には、園利用開始にあたっての説明を行い、書面にて同意を確認している</b></p> <p>入園予定の世帯に対しては、利用開始にあたっての説明を入園前に行っている。コロナ感染防止に配慮し、グループ単位で行う説明会では、園長が重要事項説明書を読み上げるとともに、解説を交えながら園利用の開始にあたっての各種の依頼事項を伝えている。また年齢で異なる準備物は、資料をもとに入園面談時に説明している。質疑応答で入園に対する疑問や不安を解消するとともに、入園面談終了後には、利用契約書の締結を行って入園に対する同意を得ている。</p> <p><b>新入園の子どもの情報を面談で確認し、保育開始後の支援に役立てている</b></p> <p>入園前に行う個別の面談では、区の書類をもとに主に子どもの健康や発達状況などを確認している。また離乳食の進行状況のほか、特定の疾患や食物アレルギーなどの個別の配慮事項があれば、詳細状況を確認し、入園後の支援に役立てている。面談で確認された事項は書面にして、クラスリーダーに配付するとともに、職員会議にて入園児の情報を共有している。保護者が記入する入園に関わる各種書類は、入園初日に提出してもらい、必要に応じて職員が閲覧できるようにしている。</p> <p><b>入園当初の親子が安心できるような配慮に努めている</b></p> <p>入園間もない慣れない環境で生活を始める子どもの負担に配慮し、5日間を目安に子どもや保護者の勤務状況に応じた期間で、保育時間を徐々に延ばしてゆく「慣れ保育」を行っている。期間中の子どもの様子に応じて期間を調整するほか、子どもの様子も見て期間の調整をしている。また家庭で使用するタオル等の愛玩品の携行を受け入れて子どもの心の安定を図るほか、保護者に子どもの状況を細やかに伝えることで安心してもらえるように努めている。今後は卒・退園等の利用終了後の関係の継続についての検討を期待したい。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリ3の講評</b>		
<p> <b>子どもの発達状況や家庭状況に関する情報について、把握・記録・更新を行っている</b>                      入園時には、子どもの発達や生活リズム、予防接種や既往症等の保健面の情報のほか、保護者の就労状況や家庭環境など、保育開始に必要な情報を、面談や各種の書類から把握している。入園後には、毎月の身体測定を行って、体格的な成長を確認するほか、定期的に子どもの発達の推移を把握している。発達状況は、年齢別の主な発達の現れに関するリストをチェックするほか、健康・食事・遊び・人間関係など、子どもの全体的な姿を所見とともに書き記している。また家庭状況については、日々の対話や連絡帳などを通じて把握し、職員間で情報を共有している。                 </p> <p> <b>全体的な計画をもとに長期・短期的な保育の計画を策定し、実践につなげている</b>                      全体的な計画には、保育理念・方針・目標、社会的責任・人権尊重・情報保護・苦情解決、養護と教育に関する保育内容や食育・健康支援・安全対策など、子どもの成長する姿や保育実践を支える取組に関する考え方や方針が明らかにされている。これをもとに年齢別の保育の計画のほか、食育・保健の計画を策定している。長期的な保育の計画である年間指導計画は、年間を4期に分けて評価反省を行い、その内容は短期的な月の計画に反映させ、実践に活かすこととなっている。                 </p> <p> <b>子どもの一人ひとりの情報を職員間で共有し、保育内容を保護者に伝えている</b>                      子ども一人ひとりの発達や特性を踏まえた援助に向けて、職員間の情報と認識の共有に努めている。子どもの状況は担任間で、保育事務を行う時間などに適宜口頭で伝達している。職員会議では、子どもや子どもたちの様子の報告と、必要に応じて個別の計画や記録を確認する時間を設けている。保育内容や計画に関する保護者への説明は、園・クラス便りに子どもや保育活動の様子を掲載して行っている。また誕生日会にはクラスごとに誕生児の保護者を招待し、親子制作を行う機会を設けており、保育の様子に触れられるようにしている。                 </p>		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>個人情報やプライバシー情報の保護、羞恥心への配慮に努めている</b></p> <p>入園時には、個人情報の利用やプライバシー保護に関する園の方針や取組を説明し、契約書の取り交わしによって、それらへの同意を確認している。入園後に子どもの情報を外部とやり取りする必要がある場合には、その都度、保護者の確認を得ることとしている。子どもの羞恥心への配慮として、外部からの視線を遮ることができるように、窓ガラスにはフィルムが貼られているほか、おむつ替えは他から見えないようにし、決められた場所で行うよう配慮に努めている。</p> <p><b>保育における心得等を定め、職員の研鑽や振り返りなどの機会を設けている</b></p> <p>職員に配付する「職員マニュアル」には、職員としての姿勢や心得などの園の考えを示し、精神的・肉体的虐待の禁止や子どもを適切な敬称で呼ぶことなど、職員による不適切な保育が行われないよう、子どもとの関わり方を定めている。園内研修ではその内容を確認したり、保育士団体の人権擁護に関するセルフチェックシートを活用した振り返りを行ったりして自戒を促すほか、気になる職員の言動があれば、リーダー層が随時、注意をするなど、現場において適切な保育の援助や声かけなどの定着に向けて取り組んでいる。</p> <p><b>手引書を整備し、園内・外の研鑽を通じて虐待防止の見識を深めている</b></p> <p>園の役割や発見のポイントなど虐待の早期発見から通告、その後の関係機関との連携を定めた手引書を整備するとともに、職員は日々の子どもの受け入れ時や着替えの折の視診等によって、虐待の早期発見に努めている。コロナ禍以前には、関連する外部研修への職員の派遣と報告書の供覧による組織内で共有したほか、昨年度末の園内研修で手順を確認している。また今年度の園内研修でも同様に研鑽の場を設ける予定とするなど、虐待に関わる園内・外の研鑽を通じて、職員が見識を深められるようにしている。</p>		

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ6の講評		
<p><b>各種の手引書を整備し、研鑽を通じて実践現場での徹底とその定着に努めている</b></p> <p>職員の心得等を示した「職員マニュアル」、園外保育や虐待、熱性痙攣やアレルギー、災害時の対応などの緊急事態の対応手順を定めた手引書をそれぞれ整備し、職員に配付している。また感染症対応や保健衛生、事故発生時の対応手順を示した手引書も整備され、事務室に設置するとともに、必要に応じて園内の必要個所に掲示して、常時参照できるようにしている。職員会議時に設ける園内研修では、定められた各種業務の手順等を確認し、現場での徹底とその定着に努めている。</p> <p><b>職員や保護者の意見をもとに、行事や保育等の見直しをしている</b></p> <p>上記の各種の手引書については、必要に応じて、随時見直すこととしており、その際には職員の意見も確認しながら行っている。コロナ禍に伴い、昨年度から保護者が参加する行事を縮小し、保護者との関わりが少なくなったことに対する反省から、今年度は感染症の状況を見ながら保護者にも参加してもらえる行事の検討を行っている。また保育面では、各クラスにおいて子どもの状況を踏まえて設置する玩具や保育環境の見直しを職員が話し合いながら進めている。行事後にはアンケートを行い、寄せられた保護者の声をもとに改善に活かす仕組みを整えている。</p>		

II サービスの実施項目（サブカテゴリ4）

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	37/37
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
○あり ○なし	6. 【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	●非該当	
評価項目1の講評			
<p><b>職員間で子どもの様子を共有し、発達に応じた環境構成の工夫に努めている</b>                      小規模園の特性を活かして、全職員が全ての子どもの状況を把握できるよう、日々の職員間の対話で気づきを伝え合うよう心がけている。職員会議では子どもやクラスの様子の報告だけでなく、必要に応じて個人記録を参照したり、状況に応じた環境設定の工夫などについても話し合っている。子どもが主体的に環境に働きかけることができるよう、遊びごとにコーナー設定を行い、玩具を自由に手にとって遊べるようにし、玩具の内容は子どもの発達や興味に応じたものとなるよう努めている。</p> <p><b>異年齢児の年齢相互の育ち合いが促され、英語に触れる機会が設けられている</b>                      食事は1・2歳児が同じ部屋で摂っているほか、戸外活動と一緒に出かけたり、朝夕の保育はともに遊ぶ時間となっているなど、異年齢児の交流の機会が設けられており、年上児の様子を見ながら年下児がまねしようしたり、年下児に玩具を手渡す年上児の姿が見られるなど、年齢相互の育ち合いが促されている。また専門講師による英語教室が行われており、歌やクイズを楽しんだり、身近な単語や簡単な挨拶に触れるなど、親しみながら就学後の英語教育の基礎を培えるように取り組んでいる。</p> <p><b>子どもの特性や子ども同士のトラブルへなど、それぞれに応じた援助に努めている</b>                      特別な配慮を必要とする子どもへの援助では、行政機関との連携や専門機関からの助言を得られる仕組みがあり、職員間での情報共有や家庭との連携を図りながら、特性や状況に応じた援助を行えるようにしている。トラブルへの対応では、子どもたちの心情に寄り添い、気持ちを代弁しながら、言葉を使って関わることを経験できるよう援助している。また言葉でのコミュニケーションが徐々にとれるようになってくる頃には、子どもが発した言葉を尊重し、それを補ったり代弁したりしながら、思いの伝え方や人との関わり方を身につけられるよう援助している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>登降園時には、保護者と子どもの状況を伝えあっている</b></p> <p>登園時には、保育者が視診を行っており、顔色・機嫌・見える範囲の傷や熱の有無を確認することとなっている。保護者からも口頭で前日から朝までの子どもの健康や情緒の状況を聴き取るほか、連絡帳の内容も確認することとなっている。子どもたちの日中の状況は、職員間で口頭伝達するほか、健康面やケガの情報など、保護者に確実に伝えるべき内容は情報共有用のノートを活用して、伝え漏れの防止につなげている。降園時には、できる限り子ども一人ひとりの状況を伝えられるよう心がけている。</p> <p><b>基本的な生活習慣の自立への援助は、発達や家庭での状況を踏まえて行うよう努めている</b></p> <p>基本的な生活習慣の自立に向けた援助では、子どもの発達の状況や意欲を踏まえつつ、家庭との連携を図りながら、無理のないよう心がけている。排せつの自立への援助では、子どもの排せつの記録やトイレやパンツへの関心を把握したうえで、保護者の意向や家庭での取組の状況を踏まえて進めており、誘いかけ、成功したときにはともに喜んで、意欲を高められるようにしている。衣服の着脱においても、一緒に行いながら手順を伝え、自ら行おうとする意欲が見られた時には、見守りながらさりげない援助を心がけ、自分でできたことを感じられるようにしている。</p> <p><b>休息は子どもの体力や生活リズムを踏まえてとれるようにしている</b></p> <p>休息は子どもの体力や生活リズムなど、個々の必要に応じて取れるようにしており、午前寝や夕寝に対応するなどの配慮を行っている。また子どもたちの睡眠のリズムを把握して、布団を敷く場所についても考慮するようにしており、早く目覚めた時には、周りの子どもたちの安眠を妨げないよう、保育者と静かに過ごしている。また活動と活動の合間には水分を摂ったり、絵本を読んだりして、心身のリフレッシュやリラクセスができるよう配慮に努めている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>子どもが遊びを選び、人との関わりを楽しめるよう環境構成の工夫に努めている</b></p> <p>保育室には子どもたちが自分で遊びを選び、集中できるようにすることを意図して、遊びごとに空間を区切りコーナーを設置している。玩具は子どもたちの精神的な発達によって変わる遊び方や理解力のほか、身体機能の発達を踏まえて内容を変えるようにしている。子どもたち同士の遊びが意味をもって交わるようになってくる2歳児クラスには、やり取りの遊びを楽しむままごとの道具が、1歳児クラスのものとは異なる内容・種類で用意されている。職員の創意工夫によって、手作りのエプロンなども用意して、子どもが想像を広げられるようにしている。</p> <p><b>子どもが言葉の感覚を身につけられるよう、声の掛け方や伝え方への配慮に努めている</b></p> <p>言葉の感覚を身につけられるように、オムツ替えや食事など生活面の援助は、声をかけながら行うことを大切にしており、ものの名前や感覚、感情、状況などを言葉にして伝えるよう心がけているほか、子どもから発せられる喃語や指差し、表情を受容し、共感を伝えるようにしている。絵本の読み聞かせを行ったり、やりとり遊びなどを一緒に楽しむほか、トラブルの際には人との関わり方や言葉の使い方を伝えている。また職員は子どもに声をかける時には、遠くから言葉を投げるように伝えるのではなく、側まで行って表情を見ながら伝えるよう努めている。</p> <p><b>音楽・英語・制作・散歩・体操など、感覚や感性を養う活動がさまざまに行われている</b></p> <p>リトミック(リズム遊び)や歌などの音楽表現を楽しむ機会を設けるほか、英語教室では簡単な単語や挨拶に触れている。制作活動は手先の器用さや感覚の状況を踏まえ、季節や子どもの興味あるものをテーマにして、さまざまな素材を用いて造形や描画に取り組んでいる。また感触遊びも採り入れている。好天時には散歩に出かけており、自然物に触れる機会となっているほか、砂場遊びやボール遊び、追いかっこなどを楽しんでいる。雨天時には室内で身体を動かさず活動を採用しているなど、感覚や感性を養う活動がさまざまに行われている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>行事は日頃の活動とつながりを持たせることで、子どもが興味を持てるようにしている</b>                  子どもたちが行事に興味や関心を持って取り組めるよう、日頃の活動の中に行事の要素を採り入れたり、遊びを継続・展開させながら取り組むようにしている。昨年度のクリスマス会では、2歳児クラスが合奏に取り組んでおり、保育者の伴奏に合わせて鈴やトライアングルを鳴らしている。楽器の活動は0歳児から音の鳴る玩具に触れたり、手を鳴らしたりするところから始まり、楽器にふれ、種類を増やしながら取り組んでいる。季節の行事も制作活動や歌、食事などを関連させて取り組んでいる。</p> <p><b>行事は、経験を通じて子どもが成長し、保護者にそれを伝える機会となっている</b>                  クリスマス会で2歳児は自分で作ったプログラムを保護者に手渡したり、合奏ではみんなで一つの曲を演奏する体験をするなど、これらの活動を通して達成感を得ている。また行事はその経験を通じて子どもが成長するだけでなく、保護者に子どもの成長を届ける機会にもなっており、コロナ禍以前では、保護者を行事に招待し、給食試食会時には親子制作を、保育参観の時には親子での運動遊びを楽しんだり、クリスマス会では、子どもの発表を見てもらっている。感染状況の好転を待って、保護者の行事への招待を再開したいと考えている。</p> <p><b>誕生会に保護者を招待し、行事後にアンケートを行うほか、園便りで報告している</b>                  上記のとおり、保護者を招待する行事の多くは実施を見合わせているものの、誕生会では対策を講じたうえで、実施形態を変更して行っている。集会形式ではなく、各クラスで行うように変更し、親子での制作活動を楽しんでおり、保護者に保育や子どもの成長の様子を伝える機会となっている。実施後には保護者にアンケートを行い、意見を次への改善に活用することとしている。誕生会では、その月の誕生児に王冠・バースデーカード・プレゼントが渡され、歌を楽しんでいる。また種々の行事の様子は園・クラス便りで保護者に伝えている。</p>		

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが健康的に安全に過ごせるよう配慮に努めている</p> <p>一日を健康的に過ごせるよう配慮に努めており、登園時の視診やその後の検温など、子どもの体調を観察して急変に備えるほか、活動の節目に水分補給や絵本の読み聞かせを行ったり、身体を横にできる空間を用意している。安全面への配慮として、子どもの体力を踏まえて、活動内容を変更したり、ケガしないよう夕刻以降は静かな活動を中心にしたりするほか、玩具の誤飲を防止できるよう大きさを考慮し、合同保育時には年上児に衝突の危険を伝えて注意を促している。また子どもが飽きないよう、玩具を提供する際には子どもに意向を聞いた</p>		

6 評価項目6 子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>食物アレルギーや離乳食など、子どもの状況に応じた食事の援助に努めている</b>                  食物アレルギーを持つ子どもへの援助は、医師の診断書をもとに行っており、食物アレルギー児への対応マニュアルを用意し、提供までの流れ図も作成している。保護者に毎月献立を確認してもらうほか、食札や専用のトレーを用意し、子どもと保育者の着座の位置についても工夫している。ただ手順書には一部改善の余地が必要と思われる部分もあり、適切化に向けた検討が期待される。離乳食の提供については、各段階の食材リストを保護者に配付しており、段階をあげる場合には、全ての食材を家庭で経験してから行うこととしている。</p> <p><b>食事は旬や栄養バランスを考慮し、さまざまな料理を体験できるよう工夫している</b>                  献立は旬の食材を用いて季節感や彩りを考慮して作成されている。2週間で1サイクルのメニューとなっており、子どもの喫食状況を踏まえて、保育者と調理担当者が連携を図り、食材の刻み方や味付け、盛り付けなどに改善を加えて、子どもが食べやすい食事となるよう取り組んでいる。また米飯・和食を中心としつつも、パン類・麺類も提供し、主菜については肉魚のバランスを考慮し、焼きもの・煮物・揚げ物・和え物・酢の物などさまざまな調理法を経験できるようになっている。そのほか、郷土料理や外国の料理の提供も行っている。</p> <p><b>食への関心を高められるよう、遊びを用意したり、おいしさを共有したりしている</b>                  保育室にはままごとコーナーを用意しており、買い物や調理、盛り付け、配膳などのなりきりや見立てを楽しめるようになっている。また食事中は職員が子どものそばで、感染対策を講じたうえで、声をかけながら援助しており、言葉や身振りで咀嚼を伝えている。また子どもと一緒に食べることは控えているが、職員も希望すれば同じものを食べられるようになっており、子どもと美味しさを共有し食事を楽しんでいる。食具は、手首の使い方や握る力などの身体的な発達のほか、家庭での食事の様子や使いたいという意欲を踏まえて進めている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当
評価項目7の講評		
<p>年齢に応じた伝え方でケガ防止や病気予防の大切さを子どもが理解できるようにしている</p> <p>0歳から2歳の乳児の保育を行う本園では、年齢に応じた方法で安全や病気予防を子どもが理解できるよう、保育活動の折々に担任からの声かけを繰り返し行っている。散歩時には交通マナー、散歩先の公園では年齢に合わない公園遊具を使用しないこと、水遊びの際に安全に遊ぶための約束ごとをそれぞれ伝えている。また避難訓練後には、園長から避難の約束ごとを説明している。散歩からの帰園後や給食前など保育活動の節目では、子どもの様子に応じて援助しながら手洗いやうがいの声かけを担当が行い、病気予防の大切さを伝えている。</p> <p>職員や嘱託医と連携しながら、子どもの健康の維持・管理に努めている</p> <p>園内研修では、子どもの急な体調変化等に対応できるよう下痢嘔吐の処理やAEDの取り扱い、心肺蘇生法などの手順を確認し、各種緊急時の対応手順書を各クラスに設置して常時活用できるようにしている。日々の子どもの健康状態は、登園時の保護者からの伝達や連絡帳を通じて把握するとともに、受け入れる職員による健康観察を行って確認し、その日の配慮に活かしている。内科・歯科の嘱託医による健診・検診で子どもの健康状態を定期的に確認しており、結果は保護者に報告し、必要な処置を講じられるようにしている。</p> <p>保護者と連携した子どもの健康の支援に向け、各種保健に関わる情報の提供を行っている</p> <p>保護者とともに子どもの健康を支援できるよう、保健に関わる情報を提供している。入園時の説明では、重要事項説明書に記載する、子どもの体調面による登園時の約束ごとや、登園許可書をもとに対象となる感染症などを説明している。また園便りに設けた保健コーナーでは、流行する感染症や季節に応じた健康維持のための留意事項を掲載するほか、園内で感染症が発生した際には、その状況を知らせる書面を玄関ドア付近に掲示するなどして、保護者への周知と感染症の蔓延防止に努めている。今後はSIDSに関する周知も図られたい。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>子育て・就労等の保護者の事情に応じた支援や負担軽減に努めている</b></p> <p>コロナ禍の現在、子どもの受け渡しを玄関で行い、保護者の園内への入室の制限を行っている中でも、保護者とのコミュニケーションをとるよう心がけている。登降園時のほか、入園時や入園後の面談において各家庭の個別の事情を把握し、園として対応可能な範囲での支援や配慮を行っている。急な残業等の就労事情による延長保育の利用にも柔軟に対応するほか、行事への参加の見通しが持てるよう年度当初に年間の行事予定を配付し、クラス別の懇談会と保育参観を同日で行う工夫をするなど、保護者の就労に配慮した負担軽減にも努めている。</p> <p><b>対面以外での代替措置を講じ、園の取組や子どもの様子を保護者に伝えている</b></p> <p>保護者に毎月配付するクラス便りでは、戸外活動を含む先月のクラスの様子を伝えて、保護者が園での子どもの様子を知り、安心できるよう情報発信に努めている。コロナ禍以前の保護者会では、園利用にあたっての各種の依頼事項を伝えるほか、防災マニュアルを配付して園の安全対策について説明し、クラスのホワイトボードを使用して日々の子どもの様子を伝えていた。各クラスの子どもの様子は年2回のクラス別懇談会で伝えており、昨年度はコロナ感染に配慮して保護者会・クラス懇談会は書面の配付に代えて行っている。</p> <p><b>保育参観や例年の懇談会など、保護者の養育力の向上を支援できるような工夫をしている</b></p> <p>コロナ禍以前のクラス別懇談会では、歓談の場を設け、保護者同士や保護者と職員の交流を行えるにするほか、保護者の育児に関する不安等をテーマに先輩保護者の経験や意見を聴く機会を設けている。また担任からは子どもの現在の様子から成長・発達を促すための今後の職員の関わり方を説明している。保育参観では職員と子どもの関わり方を見てもらうほか、クラス便りを通じても育児の参考となる情報を発信する等、コロナ禍に伴い保護者との交流機会が少なる中でも、工夫しながら保護者に子育ての一助となる情報の提供を行っている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育施設の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>散歩で体験等の機会を設け、コロナ収束後には取組の充実等を図りたいと考えている</p> <p>日々の生活では、園周辺にある複数の公園等に積極的に散歩へ出かけ、四季を感じたり、身体を動かしたりする活動を行い、途中で出会う地域住民等と挨拶を交わすなどの取組を行っている。コロナ禍以前には、地域のコミュニティセンターで同年代の子どもたちと交流したり、卒園後の受け入れ先となっている連携施設に2歳児が定期的に訪問して交流したり、保育所体験で訪れた子どもたちと一緒に過ごしたりするなどの機会が設けられており、コロナ禍の収束後には再開するとともに、さらなる充実を図りたいと考えている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	8/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
		評点(〇〇〇〇●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		○非該当
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>苦情解決制度等の周知を図り、利用者の意向を収集・解決する仕組みを整えている</p> <p>苦情解決の制度は、入園時や保護者会の折に保護者に説明するほか、本制度や第三者委員を紹介する園内掲示によって周知を図っているが、その認知向上についてはさらなる向上の余地がうかがわれる。保護者の個別の意見・要望等は園に設置する意見箱で収集するほか、登降園時の保護者との会話等で寄せられ、園内での検討・決定を経て速やかに回答することとなっている。行事後に行うアンケートでは、寄せられた意見を検討し、次の企画に活かすこととする等、行事や運営などのサービスの改善に保護者の声を活かす仕組みを整えている。</p> <p>保護者や職員による虐待防止に向けた対策に取り組んでいる</p> <p>早期発見から通告、関係機関との連携などの手順を定めた虐待防止の手引書が整備されており、職員は子どもの登園時や着替えの折に行う視診によって早期発見に努めている。疑われる事例があれば区の運営支援係や児童相談所に通告するなどして関係機関と連携する仕組みとなっており、園内研修にて職員の研鑽を図り、理解を深めている。職員の言動等の不適切な保育の排除に向け、「職員マニュアル」には、子どもとの関わり方等の園の考えを示し、年度当初等の職員会議にて内容を確認し、現場での保育実践において徹底を促している。</p> <p>各種危機管理に関する手順を定め、事故・ケガの再発防止にも取り組んでいる</p> <p>熱性痙攣やアレルギーの緊急時の対応のほか、事故や感染症・災害の発生時などの危機管理の対応手順を定めた手引書を整備している。園内研修において各種手順の確認を行うなど、想定する各種リスクの対策に努めるほか、水害発生時の園内への浸水を想定し、WEBで検索した浸水対策の映像の確認を採り入れている。園内で子どもがケガをし、病院の受診やそこに至らなかった場合は、事故報告書やヒヤリハットの各様式に記録され、組織内の共有を図るなどの再発の防止にも取り組んでいる。今後はBCP(事業継続計画)の作成を課題としている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	散歩等の運動や給食を通じて、健康で丈夫な身体づくりに取り組んでいる	
内容①	保育目標の一つである「心身ともに健康な子」の実践として、さまざまな取組を展開している。夏季の暑い時期など天候に支障がない限り、各クラスにおいて午前中は積極的に園周辺の公園等に出かけるほか、リトミック(リズム遊び)も採り入れるなど、子どもが楽しく遊ぶ中で体力の増強を図っている。また身体を動かすことによって空腹感を覚えるとともに、毎日の給食や食への関心を高める取組等を通じて、食へ興味・関心につなげている。これら動的な活動と食べることなどを一体的に行う中で、子どもたちが健康で丈夫な身体となるよう取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目		
タイトル②		
内容②		

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	子どもの発達状況や興味・関心を踏まえて玩具を選別するとともに、遊び込めるよう環境構成の工夫に取り組んでいる
	内容	子どもの状況は日々の保育や家庭との対話などを通じて把握しており、職員会議では子どもやクラスの様子を報告して共有している。それらの情報を踏まえたうえで、玩具は子どもたちの発達に沿って選別しており、遊びながら次の発達を促せるようなものや、車やキッチンなどの身の回りにあるものなど、さまざまなものを用意している。発達段階に応じて具体的なものから徐々に抽象度の高いものも揃えるようにすることで、子どもの想像力を育み、遊びの広がりを促している。また遊びごとにコーナーを設け、集中して遊べるよう環境構成を工夫している。
2	タイトル	子ども一人ひとりの発達の推移を把握して計画を策定し、全職員間で情報を共有して、個々に応じた援助につなげている
	内容	小規模園の特性を活かして、子どもの様子を職員会議等で伝え合っており、全職員が全ての子ども様子を把握できるように取り組んでいる。子どもの発達の推移は定期的に、年齢別の主な発達の現れに関するリストを用いて確認するほか、健康・情緒・食事・人間関係などの全体的な姿を所見とともに記録している。また日々の保護者との連絡帳のやり取りや対話を通じて、家庭での子どもの様子も確認している。これらを踏まえて一人ひとりの発達援助に必要な課題からねらいを定めた、個人別の指導計画を策定している。
3	タイトル	リズム遊びや英語教室、感触遊びや制作・戸外など、さまざまな活動を通じて、子どもの感性を育てている
	内容	リズム遊び(リズム遊び)では、音楽に合わせて身体を動かしたり、形態模写を楽しんだりしている。英語教室ではネイティブスピーカーの講師と一緒に、歌を歌ったりクイズで遊ぶほか、身の回りにある単語や簡単な挨拶に触れている。小麦粉粘土や新聞紙ちぎり、氷や水袋を使った感触遊びに取り組む、素材や道具を体験する制作活動は季節や文化をテーマに行っている。絵本は擬音や繰り返しを楽しむものから、図鑑の要素のあるもの、簡単な物語など、さまざまな種類のものを用意し、戸外活動は外気や自然物から四季の移ろいを感じる機会となっている。
No.		さらなる改善が望まれる点
1	タイトル	定められた職員姿勢と実践面について、現場での徹底を課題としており、園が示す考えの定着に向けた今後の工夫を期待したい
	内容	子どもと関わる職員の言動等が適切となるよう、「職員マニュアル」には、子どもとの関わり方等の園の考えを示すとともに、園内研修や年度当初の職員会議にて同マニュアルの読み合わせを行っている。あわせて各職員が、保育士団体の「人権擁護のためのセルフチェックシート」または人権配慮の基準を設けた園作成の「自己チェックリスト」を活用して振り返りを行い、自戒を促している。また気になる職員の言動等はリーダー層による随時注意を促しているが、その定着については課題と捉えており、実践での徹底に向けた今後の工夫を期待したい。
2	タイトル	コロナ禍に伴う保護者との交流機会が失われる中、園の取組や子どもの様子、利用可能なサービスの周知を課題としている
	内容	入園説明は、コロナ感染防止に配慮して簡素化して行ったり、昨年度の保護者会やクラス別懇談会は書面に代えて実施している。今年度の保護者会は開催したものの、前半に行うクラス別懇談会は中止されている。また子どもの受け渡しを玄関で行って保護者の入室を制限するなど、コロナ禍に伴って制約を受ける中で、保護者に子どもの様子や園の取組等を直接伝える機会が失われ、第三者委員や延長保育などに関する保護者が利用できるサービスの周知等を課題としている。これらの周知と認知度を高めるための今後の情報発信の工夫を期待したい。
3	タイトル	
	内容	